

# 壁掛け金具



形名

# BR-380WM

## 設置説明書

### 安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 <b>警告</b>	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	 <b>注意</b>	誤った取り扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの
--	--	---	--------------------------------------

■ 図記号の意味は次のとおりです。

 絶対に行わないでください	 必ず指示に従い、行ってください
---	---

### 警告

本製品はプロジェクターの壁設置専用品です。プロジェクター以外のものを取り付けるとその重さによっては破損することがあります。本製品が壊れて落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



壁への取り付け（壁掛け設置）工事は、特別な技術が必要です。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。取り付け工事は、プロジェクターの取扱説明書に記載されている問い合わせ先にご連絡ください。



本製品は、本書の記載に沿って設置してください。記載事項を守らないと、製品が落下し、けがや事故の原因となります。



電源コードの取り扱いには注意してください。取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。取り扱いの際には、次の点を守ってください。

- 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。
- 破損や加工した電源コードを使用しない。
- 電源コードをレール金具に通すときは、強い力で引っ張らない。



本製品を使ってプロジェクターを壁に設置するとき、壁にはプロジェクターと本製品を支える十分な強度が必要です。設置の前にプロジェクターと壁掛け金具の質量を確認して、壁の強度を確保してください。強度不足のときは、十分に補強してから設置してください。



振動や衝撃が伝わる不安定な場所には設置しないでください。プロジェクターや取り付け面が破損するおそれがあります。また、本製品やプロジェクターが落下して、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



壁に取り付ける際は、プロジェクターと壁掛け金具の質量および横揺れにも十分耐えられるように壁金具を取り付けてください。ナット・ボルト等はM8を使用してください。M8より小さいと落下事故の原因となります。取り付けの強度不足等による落下事故につきましては、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。



## 安全のために必ずお守りください

### 警告

本製品は必ず二人以上の専門業者で設置してください。設置中にネジ類を緩めるときは、本製品が落下しないように取り扱ってください。

本製品やプロジェクターが落下して、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



定期的に破損箇所やネジ類の緩みがないか点検してください。破損箇所がある場合はすぐに使用を中止してください。

本製品やプロジェクターが落下し、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



本製品の改造は絶対にしないでください。



本製品にぶら下がらないでください。また、重い物をぶら下げないでください。

本製品が壊れて落下すると大変危険です。プロジェクターや本製品が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。



調整後はすべてのネジを完全に締め直してください。

十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。



取り付け設置後は、ボルト・ナットを絶対に緩めないでください。また、定期的にネジ類の緩みがないことを確認してください。万一、緩みがあるときは、確実に締め直してください。

十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。



### 注意

ご使用になるプロジェクター機種ごとの使用温度範囲を超える場所には設置しないでください。

故障の原因となります。



レンズや内部の光学部品に汚れが付着しないように、ホコリや湿気の少ないところに設置してください。



本製品を調整するときは無理な力を加えないでください。

本製品が壊れてけがの原因になることがあります。



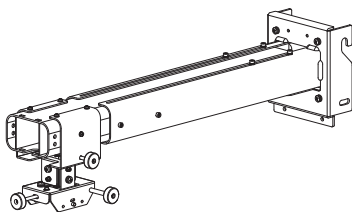
## 壁掛け金具の設置場所について

- 壁掛け金具を設置する場所にあらかじめ電源工事を済ませておいてください。
- プロジェクターを設置する場所は、蛍光灯・エアコンなど他の電気製品から離してください。蛍光灯の種類によっては、プロジェクターを操作するリモコンが誤動作することがあります。
- 外部ノイズの影響を少なくするために、パソコン等と接続するケーブルは20m以下になるようにプロジェクターを設置することをオススメします。
- レンズや内部の光学部品に汚れが付着しないように、ホコリや湿気の少ないところに設置してください。

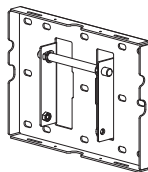
# 設置について

<b>1</b>	<b>同梱品一覧</b>	4ページ
<b>2</b>	<b>仕様</b>	5ページ
<b>3</b>	<b>投写距離表</b>	6ページ
<b>4</b>	<b>取り付け手順</b>	7～10ページ
	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 壁金具を壁に取り付ける</li><li>2. レール金具を壁金具に取り付ける</li><li>3. レール金具の長さを調整する</li><li>4. 本体金具をプロジェクターに取り付ける</li><li>5. プロジェクターをレール金具に取り付ける</li><li>6. 電源コードとその他のケーブルをプロジェクターに接続する</li></ol>	
<b>5</b>	<b>投写画面の調整</b>	11～13ページ
	<ol style="list-style-type: none"><li>1. プロジェクターの電源を入れる</li><li>2. アスペクト比を切り換える</li><li>3. フォーカス調整パターンを表示する</li><li>4. フォーカスを調整する</li><li>5. 投写画面の微調整をする (A～F)</li><li>6. 調整が完了したら、フォーカス調整パターンを消す</li></ol> <hr/> <ol style="list-style-type: none"><li>A. レール金具が壁に対して垂直になるよう再調整する</li><li>B. レール金具の長さを微調整する</li><li>C. プロジェクターの左右位置を調整する</li><li>D. プロジェクターの前後傾きを調整する</li><li>E. プロジェクターの水平回転を調整する</li><li>F. プロジェクターの左右傾きを調整する</li></ol>	
<b>6</b>	<b>カバー類の取り付け</b>	14ページ
	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 壁金具に金具カバーを取り付ける</li><li>2. レール金具にキャップ (b) を取り付ける</li><li>3. 必要に応じて補強を行う</li></ol>	

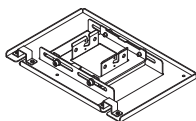
# 1. 同梱品一覧



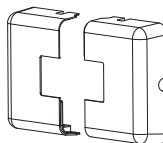
レール金具



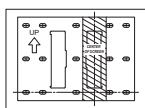
壁金具



本体金具



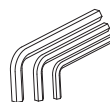
金具カバー



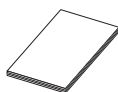
位置決めシート



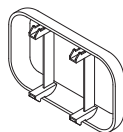
固定板 (2個)



六角レンチ (M5用、M6用、M8用)



設置説明書



キャップ

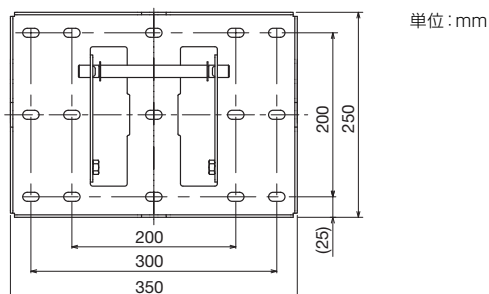
形状	名称	個数	用途
	M8×70 六角穴付きボルト	2	レール金具角度調整用
	M8×20 六角穴付きボルト (ばね座金・平座金組み込み)	2	レール金具固定用
	M6×14 十字穴付きなべ小ネジ (ばね座金・平座金組み込み)	4	本体金具取り付け用
	M4×10 十字穴付きなべ小ネジ (ばね座金・平座金組み込み)	7	プロジェクター取り付け用 (3本)、 金具カバー取り付け用 (4本)
	M3×8 十字穴付きなべ小ネジ (ばね座金・平座金組み込み)	4	本体金具・固定板固定用

- 金具の取り付けは、必ず本製品に同梱のボルトとネジを使用してください。
- 壁金具を壁に取り付ける際は、市販のM8×50mmアンカー (4本以上) または8×80mmラグボルト (4本以上) を使用してください。設置場所の条件 (壁の厚さ等) によっては、これらの長さ以上のアンカーまたはラグボルトを使用してください。
- 工具は必要に応じてご用意ください。

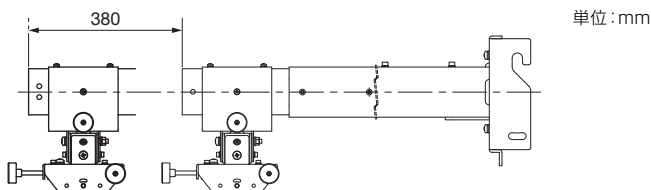
## 2. 仕様

項目	仕様	備考	参照ページ
レール金具の質量	約9.5kg	壁金具 (2.9kg)、本体金具 (1.0kg)、金具カバー (0.7kg)	
レール金具の前後スライド調整範囲	380mm		下図参照
レール金具の上下角度調整範囲	上方向: 6° 下方向: 2°		12ページ
左右スライド調整範囲	±35mm		下図参照
前後傾き調整範囲	±7°	調整ノブによる微調整が可能	13ページ
水平回転調整範囲	±7°	調整ノブによる微調整が可能	13ページ
左右傾き調整範囲	±5°	調整ノブによる微調整が可能	13ページ

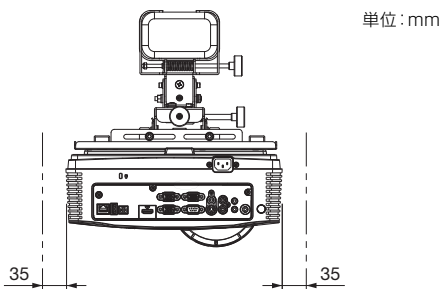
### 壁金具寸法



### レール金具の前後スライド調整範囲



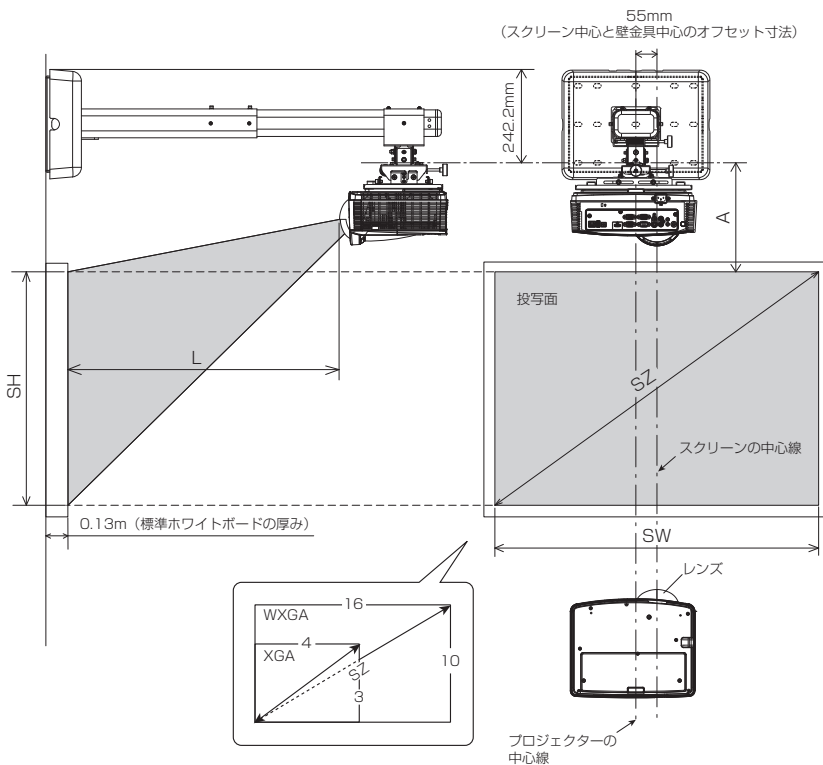
### 左右スライド調整範囲



### 3. 投写距離表

以下の表を参考にして、投写面に映像が最適な大きさで映るように設置してください。

• 数値は目安です。



#### LVP-XD360ESTの場合 (XGA)

SZ (形)	画面サイズ		投写距離L (m)	投写面と壁金具の距離A (cm)
	幅SW (cm)	高さSH (cm)		
60	122	91	0.56	28.5
65	132	99	0.61	29.9
70	142	107	0.67	30.8
75	152	114	0.72	31.9
80	163	122	0.77	33.0

#### LVP-WD380EST・LVP-WD390ESTの場合 (WXGA)

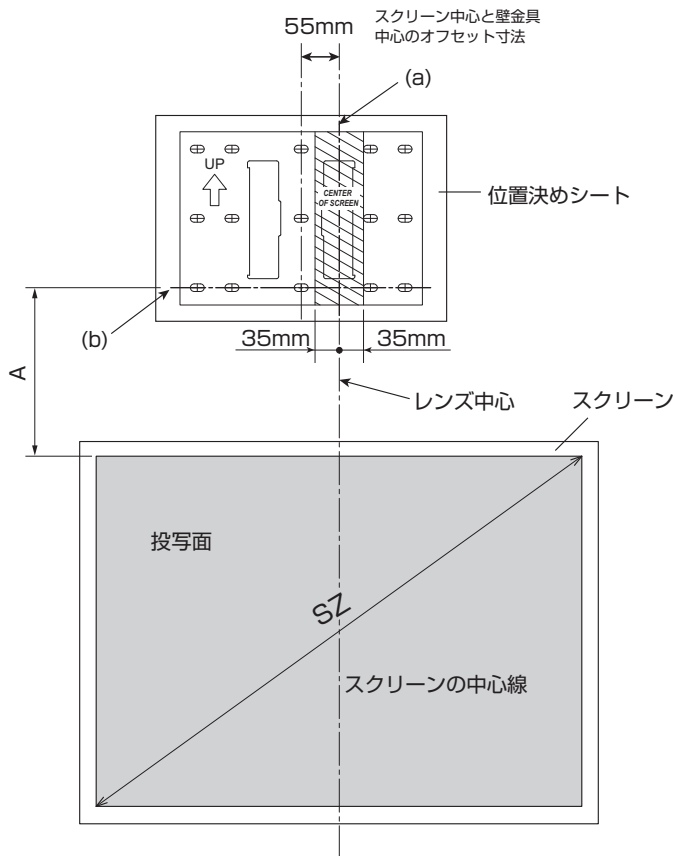
SZ (形)	画面サイズ		投写距離L (m)	投写面と壁金具の距離A (cm)
	幅SW (cm)	高さSH (cm)		
70	151	94	0.56	26.6
75	162	101	0.60	27.4
80	172	108	0.64	28.3
85	183	114	0.69	29.1
90	194	121	0.73	29.9
95	205	128	0.77	30.8

## 4. 取り付け手順

### 1. 壁金具を壁に取り付ける

#### (1) 位置決めシートの位置を決める

- 投写距離表から、スクリーンサイズ "SZ" および投写面と壁金具の距離 "A" を確認します。
- 位置決めシートの "CENTER OF SCREEN" の縦中心線 (a) を投写面の縦中心線に合わせます。  
壁の中の構造物 (ハリ等) の位置を確認し、必要に応じて左右位置を調整してください。  
(水平方向の可能移動量は左右35mmまでです。)
- 位置決めシートの横線 (b) を投写面上端から "A" の距離に合わせます。

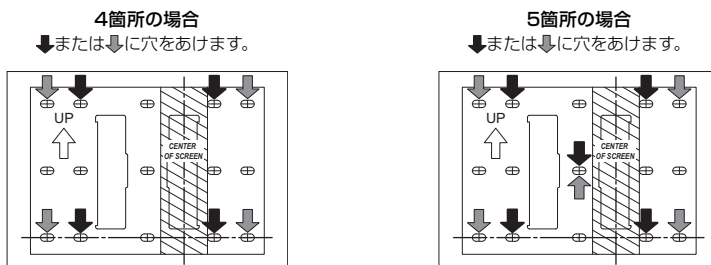


#### (2) 位置決めシートを壁に貼る

## 4. 取り付け手順

### (3) 壁金具の取り付け穴をあける

- 下図の位置に穴をあけ、市販のアンカーまたはラグボルトで固定します。4箇所以上固定してください。



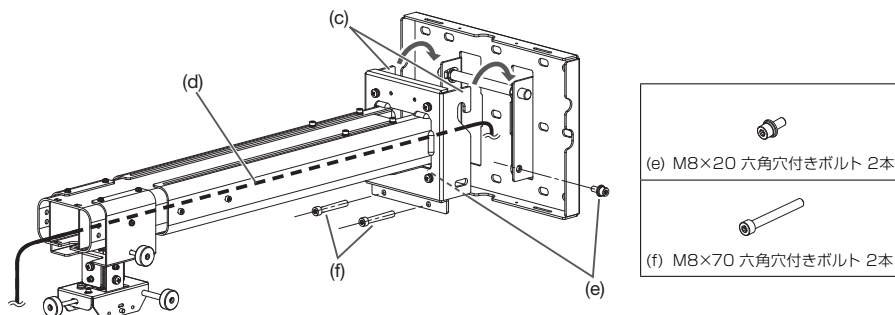
### (4) 位置決めシートを取り外して壁金具を取り付ける

#### ⚠ 警告

- 本壁掛け金具を使ってプロジェクターを壁に設置するとき、壁には本金具とプロジェクターを支える十分な強度が必要です。設置工事前に壁掛け金具とプロジェクターの質量を確認して壁の強度を確保してください。壁の強度が不足している場合は十分に補強してから設置してください。
- 壁に取り付ける場合は、プロジェクターと壁掛け金具の質量や横揺れ等にも十分耐えられるよう壁金具を取り付けてください。ナット・ボルト等はM8を使用してください。M8より小さいと落下事故の原因となります。
- 取り付け強度の不足等による落下事故につきましては、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。

## 2. レール金具を壁金具に取り付ける

### (1) 壁金具の引掛け棒にレール金具のフックを掛ける (c)



### (2) レール金具のスライドレール内にケーブル類を通す (d)

#### ⚠ 注意

- 壁金具とレール金具の間にケーブルを挟まないよう注意してください。

### (3) 同梱のボルト (e) とボルト (f) を締めてレール金具と壁が垂直になるように調整する

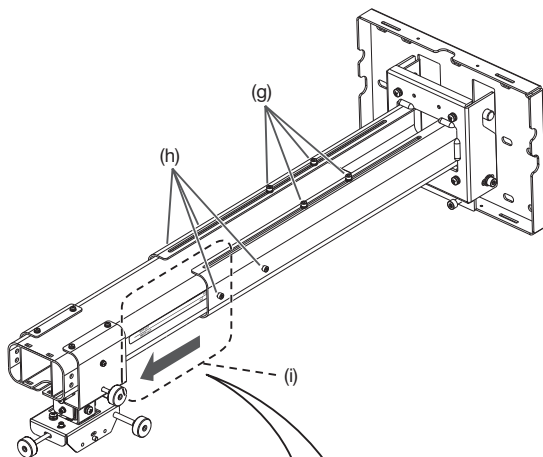


### 3. レール金具の長さを調整する

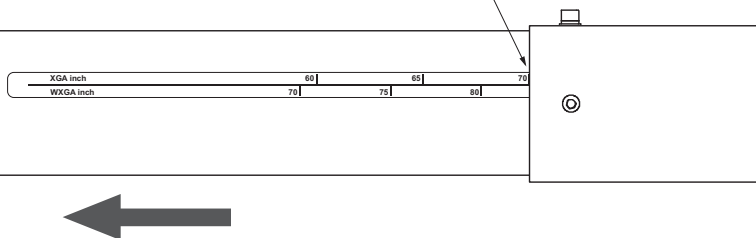
(1) ネジ4本 (g) とネジ4本 (h) を緩め、スライダを投写画面サイズに応じた目盛りの位置まで引き出す (i)

- 目盛りは、厚み13cmの標準的なホワイトボードをスクリーンとして使用した場合を想定して作成されています。使用するスクリーンの厚みが異なる場合は、あとから微調整します。(12ページ参照)

(2) ネジ4本 (g) とネジ4本 (h) を締める



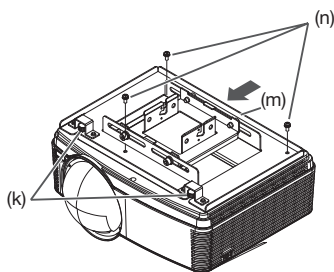
例：投写画面がXGA70形の場合



## 4. 取り付け手順

### 4. 本体金具をプロジェクターに取り付ける

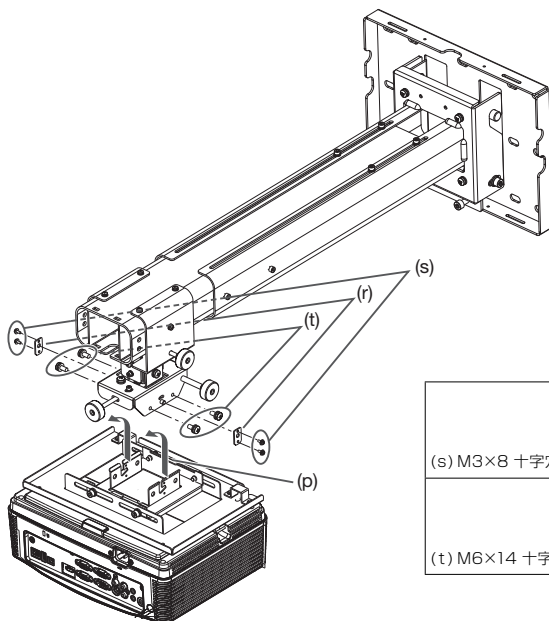
- (1) プロジェクターの角度調整脚 (k) を緩め、本体金具 (m) をプロジェクターに差し込み、同梱のネジ (n) で固定する
- (2) 角度調整脚 (k) を締める



(n) M4×10 十字穴付きなべ小ネジ 3本

### 5. プロジェクターをレール金具に取り付ける

- (1) プロジェクターと本体金具の組み立て品をレール金具のフック部に引っ掛ける (p)
- (2) 固定板 2個 (r) をレール金具のピンに通し、同梱のネジ (s) で取り付ける
- (3) 同梱のネジ (t) で固定する



(s) M3×8 十字穴付きなべ小ネジ 4本

(t) M6×14 十字穴付きなべ小ネジ 4本

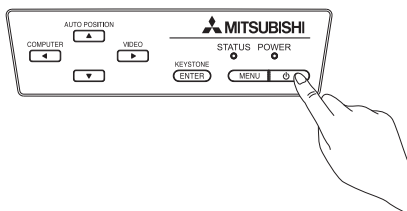
### 6. 電源コードとその他のケーブルをプロジェクターに接続する

## 5. 投写画面の調整

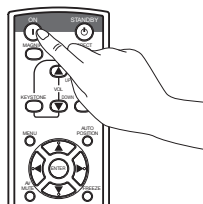
投写画面がスクリーンからはみ出したり、ひすんだりした場合は、以下の手順で調整してください。

### 1. プロジェクターの電源を入れる

本体で操作する場合



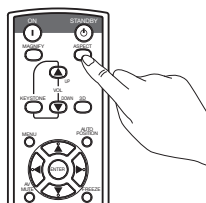
リモコンで操作する場合



### 2. アスペクト比を切り換える

#### (1) リモコンのASPECTボタンを押して適切なアスペクト比に切り換える

- アスペクト比は、ASPECTボタンを押すごとに「ノーマル」→「16:9」→「フル」→「ノーマル」と切り換わります。

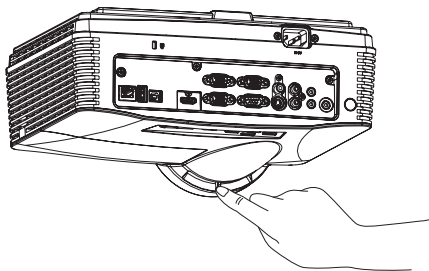


### 3. フォーカス調整パターンを表示する

ご使用のパソコンから画像を出力してフォーカスを調整してください。または、プロジェクターのスプレッドスクリーンの表示を利用してフォーカスを調整してください。

### 4. フォーカスを調整する

フォーカスリングを回してフォーカスを調整します。



### 5. 投写画面の微調整をする (A~F)

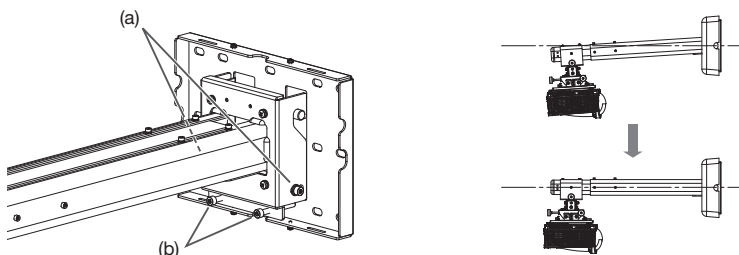
次ページ以降記載のA~Fの方法で調整してください。

### 6. 調整が完了したら、フォーカス調整パターンを消す

## 5. 投写画面の調整

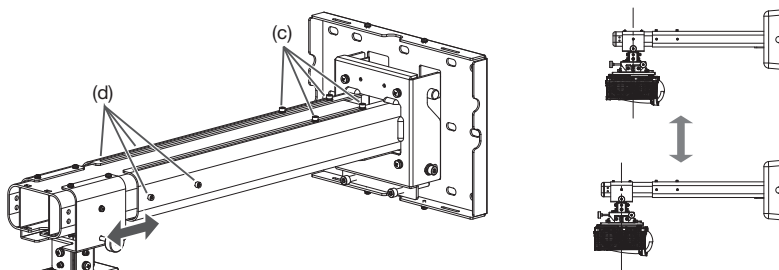
### A. レール金具が壁に対して垂直になるよう再調整する

- (1) ボルト2本 (a) とボルト2本 (b) を緩めてレール金具と壁が垂直になるように再調整する
- (2) 調整完了後、(1) で緩めたボルトをしっかり締める



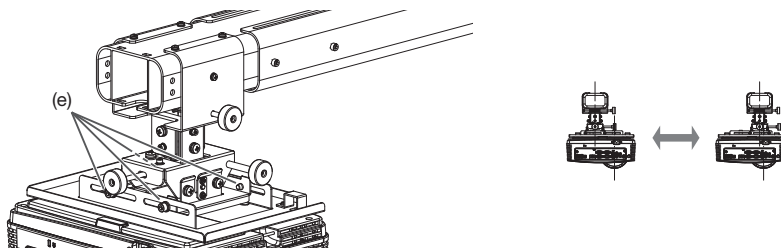
### B. レール金具の長さを微調整する

- (1) ネジ4本 (c) とネジ4本 (d) を緩めてレール金具の長さを微調整する
- (2) 調整完了後、(1) で緩めたネジをしっかり締める



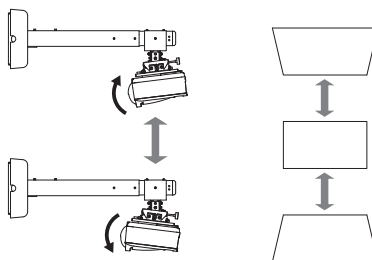
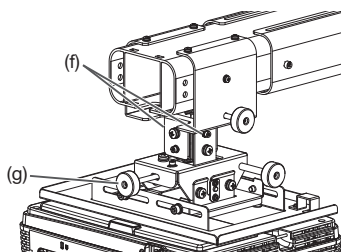
### C. プロジェクターの左右位置を調整する

- (1) ネジ4本 (e) を緩めてプロジェクターの左右位置を調整する
- (2) 調整完了後、(1) で緩めたネジをしっかり締める



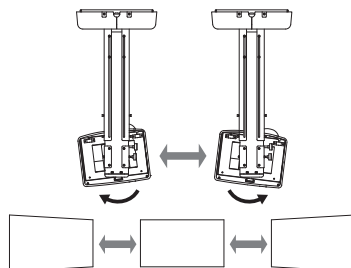
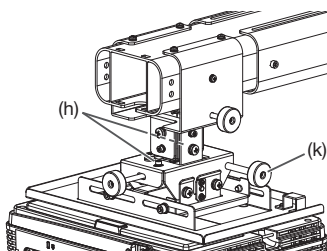
## D. プロジェクターの前後傾きを調整する

- (1) 六角穴付きボルト (f) を緩める (左右2箇所)
- (2) 調整ノブ (g) で前後傾きを調整する
- (3) 調整完了後、六角穴付きボルト (f) をしっかり締める



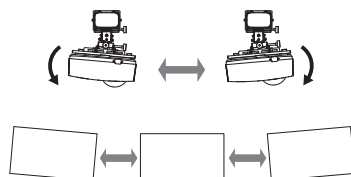
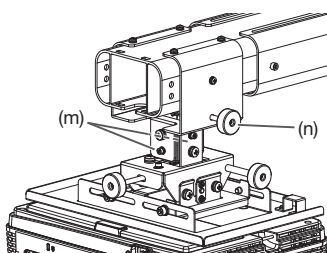
## E. プロジェクターの水平回転を調整する

- (1) 六角穴付きボルト (h) を緩める (前後2箇所)
- (2) 調整ノブ (k) で水平回転を調整する
- (3) 調整完了後、六角穴付きボルト (h) をしっかり締める



## F. プロジェクターの左右傾きを調整する

- (1) 六角穴付きボルト (m) を緩める (前後2箇所)
- (2) 調整ノブ (n) で左右傾きを調整する
- (3) 調整完了後、六角穴付きボルト (m) をしっかり締める

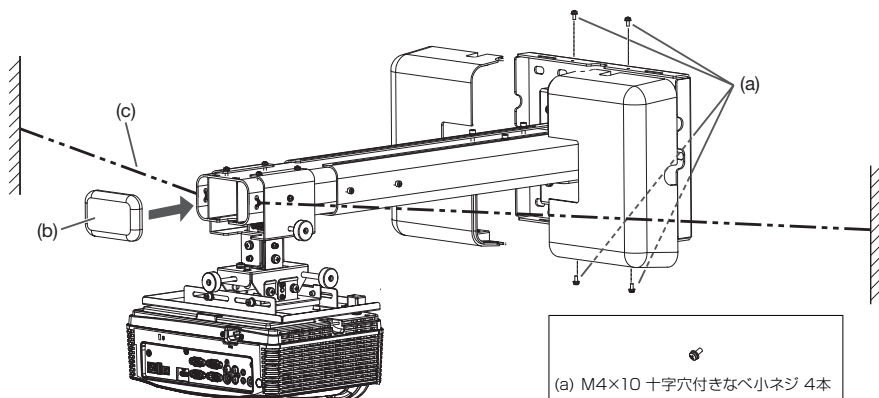


## 6. カバー類の取り付け

### 1. 壁金具に金具カバーを取り付ける

同梱のネジ (a) で金具カバーを取り付けます。

- ・ ケーブル類の配線状況に応じて金具カバーを切り取って配線してください。



### 2. レール金具にキャップ (b) を取り付ける

### 3. 必要に応じて補強を行う

使用環境によってプロジェクター (投写映像) が揺れる場合は、市販のワイヤーなどで壁への取り付けを補強することをおすすめします。(c)

## 7. ⚠ 警告

- ・ 取り付け設置後は、ボルト・ナットを絶対に緩めないでください。また、定期的にネジ類の緩みがないことを確認してください。ネジ類の緩みがあるときは、確実に締め直してください。確実に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。
- ・ 本製品にぶら下がらないでください。また、重い物をぶら下げないでください。本製品が壊れて落下すると大変危険です。プロジェクターや本製品が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。

## 8. セキュリティーについて

本製品は、盗難防止のため、市販の盗難防止ワイヤー等で下図のように柱などに固定できます。ワイヤーロックの施錠方法はワイヤーロックに添付の取扱説明書をご確認ください。

